

未収金目標及び具体取組内容調書

所属	消防局	担当	総務部総務課(計理)	債権整理番号(3ケタ)	001	債権区分	私債権	債権名	救急資器材に係る損害賠償金
----	-----	----	------------	-------------	-----	------	-----	-----	---------------

1. 令和3年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況 … いずれかの記号を入力 ※修正目標 … 当年度当初に、前年度末の未収金残高の結果を踏まえて、当初目標を修正したもの

(例) 令和3年度修正目標=令和3年度当初に、令和2年度末の未収金残高の結果を踏まえて、令和3年度当初目標を修正したもの

過年度	A	現年度	—	合計(過年度+現年度)	A
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標達成、「B1」… 取組みは予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず、目標も未達、「—」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定

2. 未収金の推移(実績及び目標) … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数 ※当初目標 … 前年度中に設定する当年度の目標

(単位:千円)

	過年度分									現年度分							合計		
	前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
	ア =前年度ケ'	イ =ア-ウ (▲=増加を表す)	ウ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =エ÷ウ	ク =カ÷ア	ケ =ウ-(エ+オ)	ウ'	エ'	オ'	カ' =エ'+オ'	キ' =エ'÷ウ'	ク' =カ'÷ウ'	ケ' =ウ'- (エ'+オ')	キ" =(エ+エ') ÷(ウ+ウ')	ク" =(カ+カ') ÷(ア+ウ')	ケ" =ケ+ケ'
A 令元実績	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
B 令2実績	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
C 令3修正目標	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
D 令3実績	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
E 令4当初目標	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
F 令4修正目標	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
G 令5当初目標	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359

3. 令和3年度決算見込における未収金実績の状況(区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数) … 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

(残高の単位:千円)

分類	回収債権									整理債権							合計				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	
未収債権の件数								1		1									1	1	2
未収金残高								332		332									27	27	359
未収債権の件数										0									0	0	0
未収金残高										0									0	0	0

① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例:毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ③ 債務者が死亡した場合、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。
 それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なる場合、3の表は、相続された債務額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ※ 未収債権の進捗状況 … ① → ② → ③ ⇒ 回収債権: (④ → ⑤) 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権: (⑩ 又は ⑪ 又は ⑫ → ⑬) 又は ⑭ → ⑯

令和3年度決算見込における債務者数	2	人
令和3年度決算見込における未収債権の件数(過年度+現年度)	2	
令和3年度決算見込における未収金残高(過年度+現年度)	359	
上記2のD(令2実績)のケ'		

4. 令和3年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容	1 履行延期も期限をむかえることから、面接を実施し、現在の生活状況を把握し、債務弁済について話し合いを行う。 2 債務者と早期に面会ができるように努める。	
取組実績	1 令和3年6月に本人と面接し、履行延期申請書を得るとともに、現在の生活状況を把握し、債務弁済について話し合いを行った。 2 住民票を取得し、定期に特定した住所を訪問したが、債務者の行方が確認できなかった。	
課題	1 生活困窮状態で回収の目途がたたないこと。 2 債務者と連絡が取れていないこと。	
改善策	1 資力が回復するのを待ち回収に努める。 2 債務者の住所は特定しているため連絡、面会に努める。	

5. 令和4年度取組内容 … 「1. 令和3年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況」及び「4. 令和3年度取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

	過年度	現年度
取組内容	1 履行延期も期限をむかえることから、面接を実施し、現在の生活状況を把握し、債務弁済について話し合いを行う。 2 債務者と早期に面会が出来るように努める。	